

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観
建物名称	(仮称)新屋敷2丁目マンション新築	階数	地上10F
建設地	熊本市中央区新屋敷2丁目23-5、23	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	90 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2013年7月18日
敷地面積	1,214 m ²	作成者	吉永 拓郎
建築面積	333 m ²	確認日	2013年7月19日
延床面積	2,360 m ²	確認者	伊東 正太郎



ください。

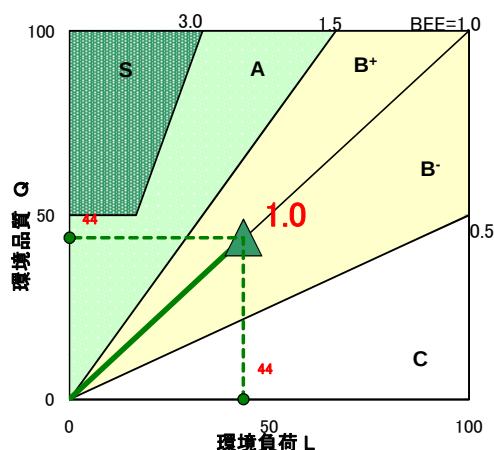
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

94%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

70

評価点

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

66.5

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

71.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

62.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

85.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

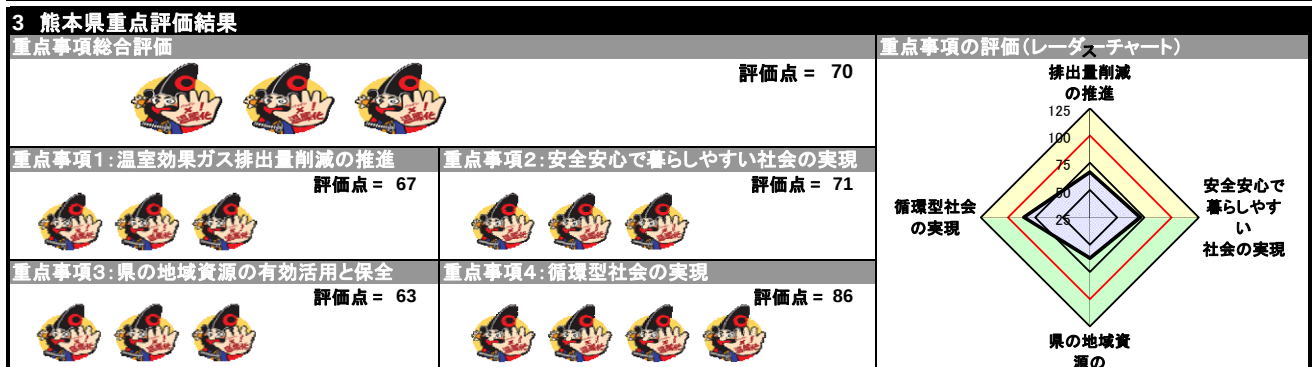
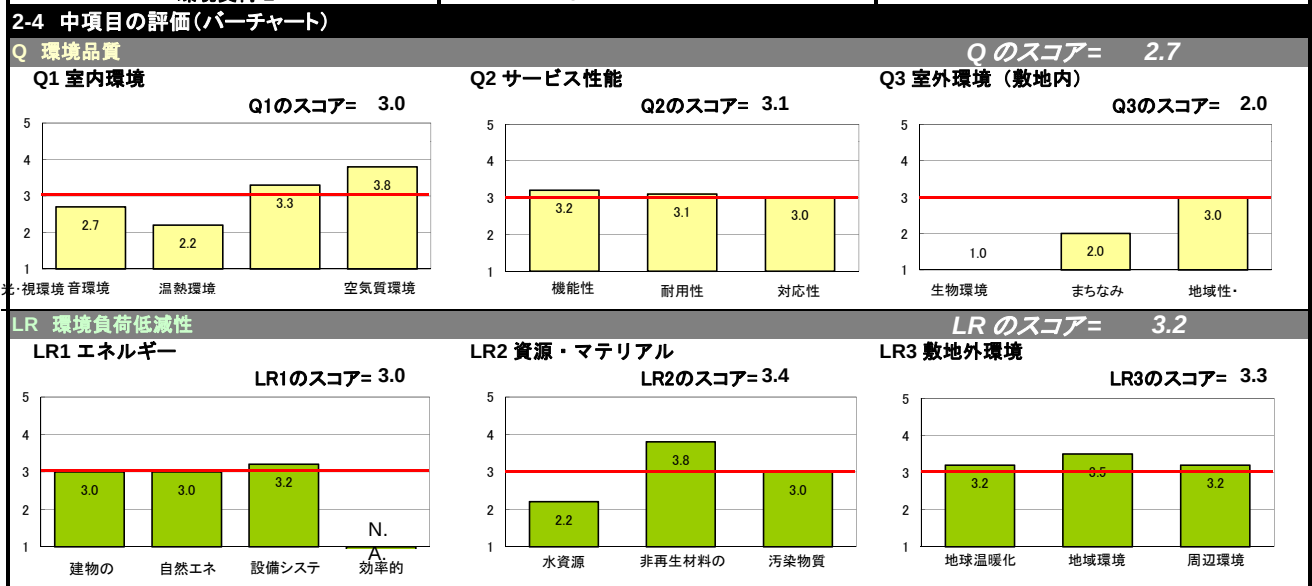
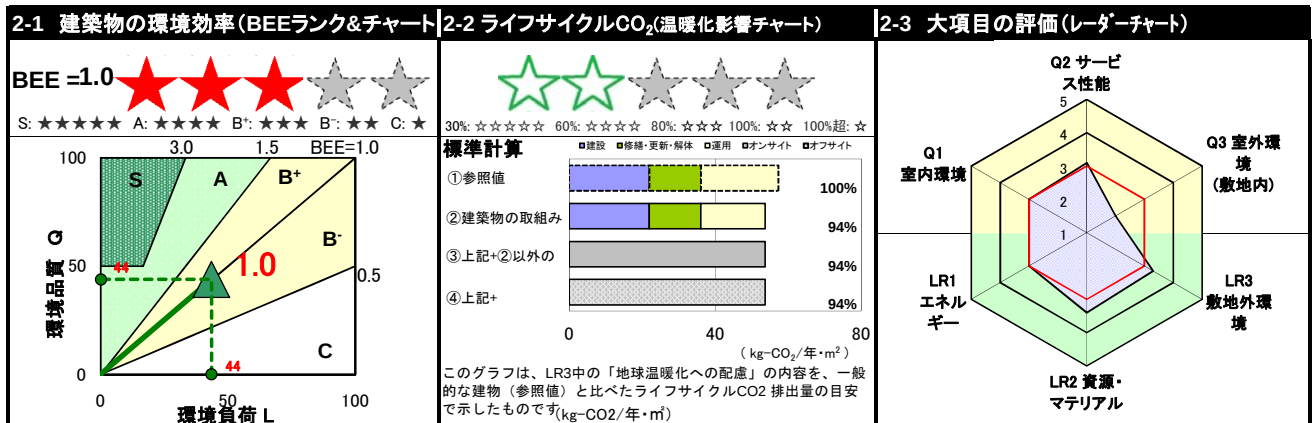
CASBEE[®]熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)新屋敷2丁目マンション新築	階数	地上10F	
建設地	熊本市中央区新屋敷2丁目23-5、24	構造	RC造	
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	90 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2013年7月18日	
敷地面積	1,214 m ²	作成者	吉永 拓郎	
建築面積	333 m ²	確認日	2013年7月19日	
延床面積	2,360 m ²	確認者	伊東 正太郎	



てください。



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)新屋敷2丁目マンション新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40			3.0
1 音環境		2.0	0.15	2.9	1.00	2.7
1.1 騒音		3.0	0.50	3.5	0.50	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	4.0	0.50	
2 設備騒音対策		-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音		1.0	0.50	2.4	0.50	
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		1.0	0.35	2.6	1.00	2.2
2.1 室温制御		1.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		1.0	0.63	3.0	0.63	
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		1.0	0.38	3.0	0.38	
4 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		2.5	0.25	3.6	1.00	3.3
3.1 昼光利用		2.4	0.30	4.0	0.30	
1 昼光率		2.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		2.0	1.00	4.0	1.00	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00	3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.4	0.40	3.4	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	4.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	タイル	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	Bを使用(給水・排水・給湯)	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	光利用可能	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.1	1.00
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50
1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。(CD管)	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	構造部材仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。(CD管)	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		1.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.0
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明	3.2	0.40	-	3.2
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		#VALUE!	5.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.2	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.4
1 水資源保護			2.2	0.15	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	パーティクルボード、再生クラッシュラン、給湯器	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	10%以上使用(天井下:スギ)	4.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	壁:木下地、GL工法	5.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		リサイクル材の使用	3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善		見付面積比244.74%、隣棟間隔指標0.48%	4.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン項目の過半を満足、広告照明なし	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

周辺地域の要望もあり、景観に配慮した外観デザインとした。また住戸では2タイプ計画し、入居者の快適性を重視した設計とした。

Q1 室内環境

・F☆☆☆☆の採用により汚染物質の最小化に努める。

Q2 サービス性能

・更新必要間隔の長い給排水配管を採用し耐久性に努めた。
・外壁の仕上げでは、耐用年数の長いタイル張とした。

Q3 室外環境（敷地内）

・周辺景観に配慮した、外観デザインとした。

LR1 エネルギー

・各住戸の断熱性能を高めた。
・LED照明を採用した。また共用部の照明で制御機能を設定し省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

・リサイクル資材を採用し自然環境の保全に努めた。

LR3 敷地外環境

・駐車場と駐輪場を敷地内に設け、周辺の交通負荷の抑制に努めた。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)新屋敷2丁目マンション新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		70.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				66.5	0.40	26.60
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				62.5	0.20	12.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	4.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数